

宮島歴史民俗資料館：保存民家

伝統的な商家が裕福な商人の暮らしを紹介する一方、復元されたこの一家族住宅は江戸時代（1603～1868 年）に普通の人々が宮島でどのように暮らしていたかを伝えています。細長い建物は狭い入口が特徴的であり、この島の伝統的な民家の典型です。鹿や他の野生動物が中に入らないよう、木の門扉を備えています。宮島の民家のほとんどは、岸と丘陵の斜面とのあいだの狭い長方形の土地に並んで建っています。利用可能な平坦地は限られていたため、できるだけ多くの民家を建てようとしたことでした。

保存民家には3つの間があります。入口の横の間は作業場として使われました。中の間は特別な機会にのみ使われ、ここには家族の神棚がありました。奥の間は座敷兼寝間として使われたのです。奥の間の戸を開けると、家の裏手にある中庭から日差しと空気を取り入れることができました。中庭には便所、風呂、台所もありました。訪問者はこれらの間に入ることはできませんが、入口から中庭に至る土間を歩いてそばを通ることができます。